

まえがき

I かえりみるの記 1

幼年時代 2 / 学生時代 7 / 臨床専門科目えらび 10 / 時流変転 12 /

中国時代 14 / 終戦以後 16 / 地下研グループ 17 / 名古屋に根をおろす 18

II 外遊記 (昭和三十九年) 23

III 随想 69

生命を学ぶ者の悩み 70 / 男性と女性 74 / 思い出と平均寿命 78 / 天然と

人工 82 / 発想型と反省型 87 / 心の師を大切に 91 / 虚構を排す 95 / 不安消

えない地震対策 99 / 妊娠調節 103 / 巨大都市に思う 107 / 人間のエゴイズ

ム 111 / 地下室の男 115 / 地域と大学 117 / 多胎妊娠 120 / 体外授精 122 /

戦争と教育 123 / 大同小異 124 / パンダの妊娠 125 / 男一匹 127 / 誕生日と

御幣おんべかつぎ 128 / 座右の銘 129 / 恩師 131 / 方言 132 / 男と女 134 / 続・男

と女 135 / 暴力沙汰 137 / 「読者の目」に工夫の跡 138 / ヒポクラテスの戒

め 141 / 執刀者と助手 144 / 恩師吉松信寶先生 146 / 自分の性格 153 / 自省

の心 156 / 科学と人間性 159 / 新潟思い出話 163 / 大隊長との対話 166 / 誕

生日の予感 169 / 受持ち患者第一号と学会登竜門 172 / 虚構とエゴイズム

176 / 技術革新と評価 180 / 私が住んだ家 183 / 医学研究に携わるものの責任

186 / 蝶々・雄二の誌上夫婦善哉 190

IV 学長の六年間……………199

新聞社取材記事 200 / 昭和五十四年度入学式学長告辞 205 / 昭和五十四年度

卒業式学長の辞 214 / 日本工業教育協会第二十三次大会祝辞 220 / 名大祭に

よせて 224 / オーストラリアの印象 231 / 名古屋大学学術訪中団印象記 237

／マニラ市の国際大学長会議 267 / 学長退任にあたって 276

V 尚和会……………281

